

偽物サイトは 見た目で違いはわからないから。



メールや
SMSの
URLリンクは
危ない!!

いつものサイトはいつもの方法で入る「**正規アクセス**」が効く!

ブックマークやアプリなどを使った
正しいログインならフィッシング被害に遭わない!



公式サイトをブックマーク

ウェブブラウザでよく見るページを登録しておいて、すぐ開けるようにする機能のことです。検索エンジンで正規サイトにアクセスしたらブックマークを心がけましょう。

APP

公式アプリ

正規のアプリストアで配布されているアプリは開発元が明記されていて信頼できるものです。アプリをインストールする際は正規のアプリストアからインストールしましょう。

そのほか金融機関ではさまざまな対策を講じています

フィッシングサイトの検知・閉鎖活動の強化

フィッシングサイトの立ち上がりを監視し、検知したフィッシングサイトの閉鎖。

メールの送信ドメイン認証

なりすまされているメールは受け取らないと受信側に対してメールの受信拒否を要求するDMARCという技術。

メールを送信した企業のブランドアイコンが受信メールフォルダに表示されるBIMIという技術。

ウェブサイトトップだけでなく、アプリ内通知や定期メール、ログイン時に閲覧しなければ先に進めないなどの方法により、必ず注意喚起に目を通すような措置を講じています。

金融機関では送信ドメイン認証技術の導入やフィッシングサイトの速やかな閉鎖など、フィッシング対策を講じていますが、完全に防ぐことはできません。利用者も自身の身を守るために注意することが必要です。

そのために!

金融機関名のメールであっても偽物の場合があります!送信アドレスやリンクを注意して確認!ブックマークした公式サイトや公式アプリからアクセス!

ご自身で
できる
7つの対策

対策④

適切な上限を設定する

金融サービスにおける取引や振込の上限は取引の実態に合わせて適切な金額を設定する。

対策①

不審なリンクは開かない

不審なメールまたはSMSや添付ファイル、リンクを開かないこと。

対策②

パスワードは使いまわさない

パスワードは推測が容易な単純なものを用いず、また、同じパスワードを使いまわさないこと。

対策③

強力な認証方式を利用する

金融機関から強力な認証方式が提供されている場合は積極的に利用すること。

対策⑤

公式サイトを利用を徹底する

ソフトウェアは必ず公式サイトや正規のアプリストアからダウンロードすること。

対策⑥

不自然な画面に注意する

普段と違うログイン画面、不自然なポップアップ、追加の個人情報入力要求などが出た場合は閉じること。

対策⑦

通常と違う入力指示には警戒する

ブラウザから通常行わないキーボード操作、特にCtrl+V等のショートカット実行などを求められても実行しないこと。

大切な資産は、奪わせない。

金融庁
Financial Services Agency

警察庁
National Police Agency

JBA 一般社団法人
全国銀行協会

Face to Face 一般社団法人
全国信用金庫協会

信用組合 一般社団法人
全国信用組合中央協会

ろうきん 一般社団法人
全国労働金庫協会

JSDA 日本証券業協会
Japan Securities Dealers Association